

自分時間の過ごし方

カゴメ社長 寺田直行
てらだ なおゆき



父が仕事一筋な大正生まれの人だった反動からか、私は趣味が多い。若いころから仕事は集中してこなし、プライベートな時間を確保する。それを子育てや自分が楽しむことに充ててきた。しかしながら、社長になってからはスケジュールがほとんど埋まってしまい、唯一の休みは日曜日ぐらい。その休日さえ、夕方からは翌週の業務の準備を始めるので、朝から夕方までの時間がかけがえのない「もうひとりの自分時間」である。

休日は、いつもどおりに起きてウォーキングで汗をかき、その帰りにお店に寄って自社商品の店頭チェックをする。その後は必ずゴルフの練習、お昼は自分で料理し、午後からは読書、競馬、録画したビデオやゴルフ番組を見て、たまにスーパー銭湯やマッサージに行ったり、妻の買い物に付き合ったり、ペットと散歩したり、ともかく時間に追われている生活を続けてきた。ある時、これからは時間を意識せず、ただのんびりと過ごすことも必要ではと思いつき、毎年業界や社内の予定が空く11月末に、しっかりと休みを取って妻と2人、のんびりとしたハワイステイを楽しんでいる。ごく普通の趣味ではあるが、会社や仕事を全く考えないで過ごす時間が、逆に仕事の活力やヒントにもなる。

会社ではいち早く「働き方の改革」に着手し、

今年から副業も解禁した。生産性向上を旗印にはせず、「働き方の改革は生き方改革」という考えを基本とし、社員には一度しかない人生を、会社の仕事だけではなく、会社以外の社会にも広くアンテナを張り、これからの縮小・淘汰の厳しい時代を健康で強く生き抜く個人になってほしいと願っている。

私もいずれ会社を去るが、今は昔と違って健康寿命まではまだ結構な時間がある。会社という組織人を卒業した後は、今度は全く異なるもうひとつの人生を過ごしたいと考え始めている。でもそれはまだ先の話、趣味の時間は忙しい毎日があつてこそその楽しい時間である。しばらくはもうひとがんばり、仕事に集中するのみである。

令和の時代は会社と個人の関係も大きく変わっていくと考える。会社に依存するのではなく、会社という場をどう活用して自分の能力や適性を磨いていくか、個人の生き方が主体となっていくのではないか。「もうひとりの自分時間」が副業につながり、やがては本業に発展することもあるだろう。「働き方の改革」は単に生産性の向上だけではなく、会社だけが人生ではない多様な生き方に気付くきっかけになると思っている。